

# 日蓮大聖人御書全集

ときどのごしょ

## 富木殿御書

しかだんみんごしょ

## (止暇断眠御書)

新版  
1322

ς

1324

ときどのがしよ しかだんみんごしょ  
富木殿御書（止暇断眠御書）

けんじ

ねん

がつ

にち

さい

ときじょうにん

建治 3 年 ('77) 8 月 23 日

56 歳

富木常忍

みようほうれんげきょう だいに い  
妙法蓮華経の第二に云わく「もし人信ぜずして、この経

を毀謗せば、経を読誦し書持することあらん者を見て、

きようせんぞうしつ けつこん いだ  
軽賤憎嫉して、結恨を懷かん。その人は命終して、阿鼻獄

に入らん乃至かくのとく展転して、無数劫に至らん」。

第七に云わく「千劫、阿鼻地獄においてす」。第三に云わく

さんぜんじんてん だいらぐ  
「三千塵点」。第六に云わく「五百塵点劫」等云々。涅槃経

に云わく「惡象に殺されては三悪に至らず、悪友に殺され

かなら さんあく いた とううんぬん。

ては必ず三悪に至る」等云々。

けんえぼさつ ほうしようろん

い

ぐ

しょうほう しん

い

堅慧菩薩、宝性論に云わく

「愚にして正法を信ぜず、

邪見および憍慢、過去の謗法の障りあり。不了義に執著

くよう くきよう じやく

じやほう

み

ぜんちしき

おんり

して供養・恭敬に著し、ただ邪法のみを見て善知識を遠離

とう しゅじょう もの しんごん

だいじょう しん

ゆえ しょぶつ ほう

ぼう

ごとき等の衆生は、大乗を信ぜず。故に諸仏の法を謗ず。

ちしゃ まさ おんけ じゃ か どく いんだら へきれき とうじょう もろもろ

智者は応に怨家・蛇・火・毒・因陀羅の霹靂・刀杖・諸の

あくじゅう ころう し しどう おそ かれ よ いのち た

悪獸・虎狼・師子等を畏るべからず。彼はただ能く命を断

ひと

おそ

あびごく

い

つのみにして、人をして畏るべき阿鼻獄に入らしむること

能わず。応に畏るべきは深法を謗すると、および謗法の知識となり。決定して人をして畏るべき阿鼻獄に入らしむ。悪知識に近づいて、恶心にして仏の血を出だし、および父母を殺害し、諸の聖人の命を断ち、和合僧を破壊し、および諸の善根を断ずといえども、念を正法に繋くるをもつて、能く彼の処を解脱せん。もしまだ余人有つて甚深の法を誹謗せば、彼の人は無量劫にも解脱を得べからず。もし人、衆生をしてかくのごとき法を覚信せしめば、彼はこれ我が父母、またこれ善知識なり。彼の人はこ

ちしゃ

によらい

めつご

じやけん

てんどう

かえ

しょうどう

い

れ智者なり。如來の滅後に邪見・顛倒を廻して、正道に入

り」等云々。とううんぬん

らしむるをもつての故に、三宝清浄の信、菩提功德の業あ

り」等云々。とううんぬん

竜樹菩薩、菩提資糧論に云わく「五無間の業を説きたも  
う乃至もし未解の深法において執著を起こさば○彼の前  
の五無間等の罪の聚まりをこれに比するに、百分にも及ば  
ず」云々。

夫れ、賢人は安きに居て危うきを欲い、佞人は危うきに居  
て安きを欲う。大火は小水を畏怖し、大樹は小鳥に値つて

枝えだを折ほさつらる。智人ちじんは恐怖くふすべし、大乘だいじょうを誇ぼうずるが故に。天親てんじん菩薩ぼさつは舌したを切いたらんと云いい、馬鳴菩薩めみょうぼさつは頭こうべを刎はねんと願きい、吉藏大师きちぞうだいしは身みを肉橋にくばしとなし、玄奘三藏げんじょうさんぞうはこれを靈地れいぢに占ながい、不空三藏ふくうさんぞうは疑うたがいを天竺てんじくに決けつし、伝教大师でんぎょうだいしはこれを異域いきごくに求もとむ。皆みな、上かみに挙あぐるところは經論きょうろんを守護しゅごする故ゆえか。今いま、日本国にほんこくの八宗はっしゅうならびに淨土ぜんしゅうとう・禪宗ししゅ等などの四衆よしゆう、上かみは主上しゆじょう・上皇じょうりょうより、下しもは臣下しんか・万民ばんみんに至いたるまで、皆みな一人ひとりも無なく弘法こうぼう・慈覺じかく・智証ちしょうの三大師さんだいしの末孫ばつそん・檀越だんおつなり。円仁慈覺大师えんにんじかくだいし云いわく「故に彼かれと異ことなり」。円珍智証大师えんちんちしようだいし云いわく「華嚴けごん・法華ほつけ

だいにちきょう のぞ くうかいこうぼうだいしい のち  
を大日経に望めば戯論となす。空海弘法大師云わく「後に  
のぞ けろん つく とううんぬん さんだいし こころ ほけきょう  
望めば戯論と作る」等々。この三大師の意は、「法華経は  
いこんどう しょきょう なか だいいち  
已今当の諸経の中の第一なり。しかりといえども、大日経  
あいたい けろん ほう とううんぬん だいにちきょう  
に相対すれば、戯論の法なり」等々。この義、心有らん  
ひと しん と いな  
人、信を取るべきや不や。  
いま にほんこく しょにん あくぞう あくめ あくご あつく どくじや あくし  
今、日本国の諸人、悪象・悪馬・悪牛・悪狗・毒蛇・悪刺・  
けんがん けんがん ぼうすい あくにん あつこく あくじょう あくしゃ あくさい あくし  
懸岸・険岸・暴水・悪人・悪國・悪城・悪舎・悪妻・悪子・  
あくしょじゅうとう ちようか くふ  
悪所従等よりも、これに超過しもつて恐怖すべきこと  
ひやくせんまんおくばい じかい じやけん こうそうとう  
百千万億倍なるは、持戒・邪見の高僧等なり。

と

い

かみ

あ

さんだいし

ほうぼう

うたが

問うて云わく、上に挙ぐるところの三大師を謗法と疑う

えいざんだいに

えんちようじやつこうだいし

べつとうこうじょうだいし

あんえだいらく

か。叡山第二の円澄寂光大師・別当光定大師・安慧大樂

だいし  
えりようかしよう

あんねんかしよう

じょうかんそうず

だんなそうじょう

えしんのせんとく

大師・惠亮和尚・安然和尚・淨觀僧都・檀那僧正・恵心先德、

すうひやくにん

こうぼう

みでし

じちえ

しんせい

しんがとう

これららの数百人、弘法の御弟子の実慧・真濟・真雅等の

はっしゅう  
じっしゅうとう

だいし

せんとく

ひ

数百人、ならびに八宗・十宗等の大師・先徳、日と日と、

つき  
つき  
ほし  
ほし

なら  
い

月と月と、星と星と、並び出でたるがごとし。既に四百余年

きようりやく

ひとびと

いちにん

すで

しひやくよねん

ぎ  
うたが

を経歴するに、これらの人々、一人としてこの義を疑わ

なんじ

ち

なん

うんぬん

ず。汝、いかなる智をもつてこれを難ずるや云々。

こころ

あん

わ

もんけ

よる

これらの意をもつてこれを案ずるに、我が門家は、夜は

ねむ

眠り

た

ひる

いとま

とど

あん

いつしょうむな

す

ご

して万歳悔ゆることなかれ。

恐々謹言。

ばんざいく

はちがつにじゅうさんнич

八月二十三日

にちれん

かおう

日蓮

花押

富木殿

ときどの

鵝目一結、給び候い了わんぬ。

いのこるぞし  
あ

しょにん

いつしょ

じゅじゅう

ごちようもん

志 有らん諸人は、一処に聚集して御聴聞あるべき

か。